

紅毛奇方妙あらひこ代廿四文

色の白くある
妙薬

この妙あらひこにわらへる奇方ありその薬法都て御願ね肌膚ふ
奇効ある薬種のも調合する洗粉の極製より小三馬年未だ
ゆきとふ神妙不測のさめあり平生かきとれいあつたれつこ
いやどと色くろくさあありさあ方ては絶えあつたさあをそのま
ふふしは顔皮膚のあがら紙さる是は蘭名もあれどくのおちえり
なふふ俗ふ妙あらひこと私名して今般世不慮うそを女中の方
おもし或は由風呂ふめさせあつた又い手水をついあふ度あふの
妙あらひことをぬぐ袋のあふおつたて月いあふ中五の如くひり
は膚雪の如く清らるるゆ白ひけあふく自ら艶潤いといひ
白粉をつけずては顔奇麗にぬえと妙え世ふたのたひの薬
あふこありといふもこの妙あらひこふまされるるは白ひけあ
はれその効能をありあへる式亭小三馬欽白(小三馬)

本家製法所江戸本町三頁中ねど式亭三馬製

紅毛奇方妙あらひこ 文庫10-8032-1

早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library